



特定非営利活動法人

医学統計研究会

Biostatistical Research Association

Newsletter No.1 (118)

2014.1.31

新年おめでとうございます。

「アベノミクス」の影響でしょうか、景気回復の兆しによる世の中の動きに積極性と明るさが出てきたように感じています。本研究会も、本年10月で満10歳を迎えます。4月以降にお祝いの記念事業を計画しています。会員の皆様には本年もご高配・ご支援のほどをよろしくお願い申し上げます。

1 定例会[大阪]2014-1-11が以下の次第で開催されました[敬称略]。

日時：2014年1月11日（土） 13：30～17：30

会場：イーピーエス㈱ 大阪事務所

報告・討論：

吉川隆範. 2重ベキ加重化変換とその性能.

大山秀輔. 交互作用とその評価：その後.

尾崎寿昭. 形状不変モデルの推測と評価.

吉田 歩. 体外診断薬の評価の標準化：統計的観点.

池田敏広. 患者像に基づく用量反応の評価

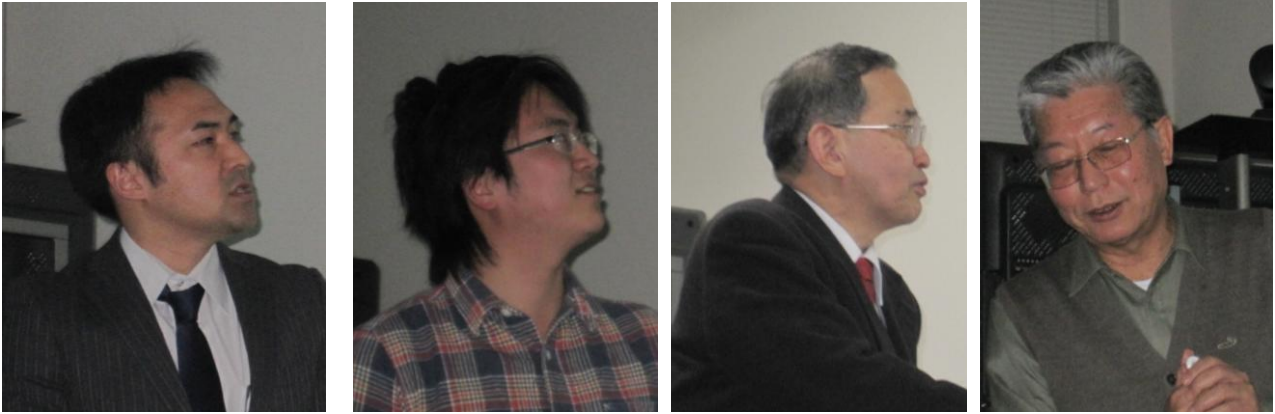
中村将俊. Trees Garrote.

松原義弘. 統計的方法の誤用と誤解.

後藤昌司. 計画と遂行の過程 2014

参加者は講演者を含めて11名でした。久しぶりの定例会[大阪]とあって興味深い報告とその活発な討論で盛り上がりを見せました。なお、課題検討会は「そばよし」（西中島南方）で開かれ、9名の方々が参加されました。





－ 一定例会[大阪]2014-1-11 でのひとこまー

2日本医師会生涯教育制度適合学術講演会・第5回「医学統計基礎セミナー」が、以下の次第で開催されました[敬称略].

日時：2014年1月17日（金）19：00～20：30

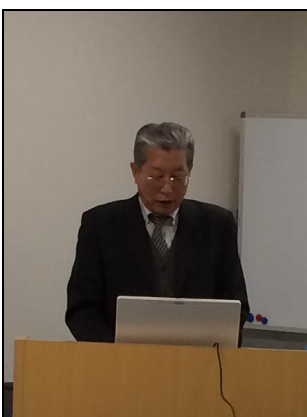
会場：ホルトホールおおいた 4F 406 会議室

講師：松原義弘・後藤昌司[当初、坂本 亘教授（岡山大学）が講義される予定であったが、松原が代わりに講師を務めた].

講義概要：

統計的方法はその正しい使い方を身につけなければ、誤った判断・結論が導かれたり、ひいては他者を欺く道具になったりする。まさに「諸刃の剣」である。英国の著名な生物統計学者は「統計的方法の誤用は非倫理的である」とまで述べている。

5回にわたるセミナーの最終回として、統計的方法の誤用と誤解がなぜ起きるのか、どうすれば誤用を防ぐことができるかについて講義・議論された。データ収集のデザインと方法から、データ解析の方法、解析結果の提示・解釈に至るまでの注意点を二三の事例を交えて、解説された。さらに、誤用と誤解に対する一つの処方として「統計的経験則」と教訓が紹介された。なお、25年度の本セミナーは今回で終了したが、来年度[26年度]については新しい企画で開催することが提示された。



－ 医学統計基礎セミナーでのひとこまー

③定例研究会[東京]2014-1-31 が以下の次第で開催されます[敬称略].

日時：2014年1月31日(金). 13時30分～17時.

会場：生涯学習センターばるーん204会議室.

プログラム：

川端ゆみこ. 生体リズムのモデル評価.

大江基貴. Smoothing receiver operating characteristic curve.

丸尾和司. Box-Coxモデルに基づく中央値の差の推測.

古川泰伸. 薬物動態評価における対数変換.

高瀬貴夫. 2重ベキ加法化変換とその評価.

藤澤正樹. 回帰解析の事例検討.

松原義弘. 統計的方法の誤用と誤解.

後藤昌司. 計画と遂行の過程 2014.

本年最初の定例研究会[東京]ですので、多くの方々にご参加いただくと幸いです。連絡窓口（幹事）は以下のとおりです。

丸尾和司：k-maruo@kowa.co.jp

五十川直樹：Naoki.Isogawa@pfizer.com

④特定主題シンポジウム「抗がん医薬の開発における統計的寄与」が以下の次第で開催されます[敬称略].

日時：2014年2月1日（土）. 10時～17時.

会場：アステラス製薬(株)：日本橋本社 4Fホール

プログラムについては、既に本研究会のWebでお知らせしていますが、念のために、その講演要旨を以下にご紹介いたします：

本シンポジウムでは、抗がん医薬品の開発における昨今の統計的接近法および開発の現場での活用状況、さらには今後の抗がん医薬品の開発に対する統計的寄与が議論されます。

武田 純講師には、抗がん医薬品の開発において頻繁に用いられる中間解析の数理と臨床試験の計画立案時における留意点、井上耕平講師には、中間解析についてCROでの実務を通じた豊富なご経験をご紹介いただく予定です。平川晃弘講師には、抗がん医薬品の開発における早期臨床試験の現状と課題を講演いただく予定です。

橋垣 学講師・藤井陽介講師からは、抗がん医薬品の臨床開発の課題について実例とともにご紹介いただき、石塚直樹講師と浅川 誉講師から、抗がん医薬品の開発におけるBays流接近法の活用についてご講演いただくことになっています。最後に、柴田大朗講師からは、がん領域の薬物治療の開発における生物統計学の寄与について包括的にご講演いただく予定です。

⑤大分統計談話会・第49回大会が以下の次第で開催されます[敬称略].

日時：2014年2月13-14日（木-金）.

会場：富士通大分システムラボラトリ.

プログラムは既に配信されていますが、念のために、特別講演と特別セッションを以下にご紹介いたします。

特別講演1：2月13日（木）. 16：30~17：30

馬場眞澄：心について考える.

特別講演2：2月14日（金）. 11：00~12：00

神津健一：細胞（膜）栄養療法から診た現代医療の誤り.

特別セッション「医薬品開発におけるモデリング・シミュレーション」. 15：50~17：20

-鈴木昭之・朝野芳郎：最近の動向（仮）

-土綿慎一：Best practices and guidance in population modeling（仮）

-庄子 聡：実例紹介（仮）

編集後記①：平成26年[実際には、旧暦では節分（2月3日）から新年に相当]は、十干12支で「甲午（きのえ・うま）」にあたる。十干では、「甲」は「草木や種子の芽を覆っている殻を破って頭を少し出した」象形文字だそうで、「はじまる」と読むようである。十干の最初にくるのが「甲」とされている。「午」は杵の形をした呪器の象形（文字）で「さからう」「そむく」の意をもつそうである。内外にいろいろと起きても「創造的かつ着実に改革を重ね、大事には信念と責任をもって対処すれば大きく躍進する年」になるとのことである。

安岡正篤：干支の活学. 致知出版社, 1989.

松並孝雄. 新年の干支に思う：改革により大躍進する年. 致知, 2014, 95.

本研究会の10周年にあたり、仲間の方々とともに大きく飛躍したい。・・・・・・・・・・・・・・・・名和田 潜

編集後記②：先般にもお知らせしましたが、本研究会の10周年記念行事として「特別講演会」と「祝賀会」を以下の次第で開催いたします[Newsletter No.9(114)を参照].

日時：2014年9月6日(土).

特別講演会：13:00~17:00

祝賀会：18:00~21:00

会場：交渉中

会員の方々のご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。・・・・・・・・・・・・・・・・窓口

Newsletter 編集：

後藤昌司・松原義弘・坂本 亘・富金原 悟・河合統介・藤澤正樹・杉本知之・大門貴志・伊藤雅憲・吉川隆範

連絡先：医学統計研究会 事務局 [吉田 舞・後藤 孚]

〒560-0085 豊中市上新田2丁目22-10-A411号

Tel & Fax：06-6835-8790 / e-mail：bra_goto@ybb.ne.jp / URL：<http://www.bra.or.jp>

本ニューズレターの転載は全文・部分を問わず禁止させていただきます。